

# 藻場増殖礁を核とした対馬市での藻場造成

## 豊かな森が豊かな海をつくる ヤマネコの住む森づくり



BLUE OCEAN  
INITIATIVE

住友大阪セメント(株) (株)SNC

発表者:(株)SNC 二川敏明 遠藤和教

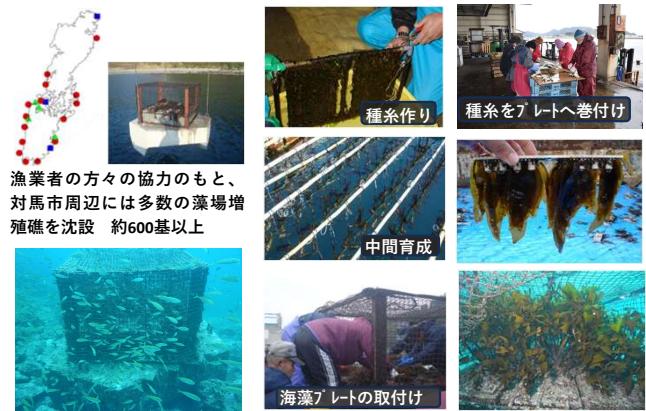
### 要約

30年以上 対馬の海で取り組んできた藻場造成も、海水温の上昇という環境変化のなか様々な新たな取り組みを実施しています。また CO<sub>2</sub>削減、海洋生分解性プラスチック適用、水中ドローン活用等環境負荷低減の取り組みも研究開発中です。「豊かな海は豊かな森から」を合言葉にツシマヤマネコの住む森づくりの活動もご紹介いたします。

### 1.研究の目的と背景

近年 対馬沿岸では磯焼け問題がクローズアップされています。住友大阪セメント(株)では、顕著な磯焼けが始まる前から漁業者の皆様と一緒に藻場増殖礁を核とした藻場造成による豊かな海づくりに取り組んできた30年あまりの実績があります。

その中で地球温暖化による海水温の上昇、海藻を餌とする藻食性魚類の増加といった環境変化に対応する藻場増殖礁の開発とさらに一步踏み込んだ環境負荷低減型の藻場増殖礁の開発を進めています。



### 4.ヤマネコの住む森づくり 「豊かな森が豊かな海をつくる」



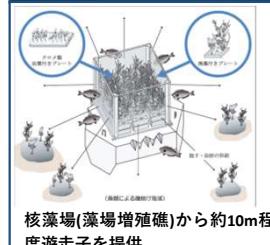
### 5.対馬の未来に向けて



住友大阪セメント(株)と(株)SNCから、今年も寄付いただきました。  
「豊かな森が豊かな海をつくる」は住友大阪セメント(株)の社有林があり、2年は地元と協力してヤマネコをはじめ対馬の生き物が暮らすやうい「舟志の森づくり」を行っています。

広報つしま 2025.8より

### 2.研究結果

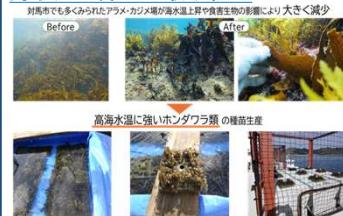


核藻場(藻場増殖礁)から約10m程度遊泳子を提供

#### 藻場増殖礁の食害防止への取り組み



#### 海水温上昇への取り組み



- ・藻食性魚類が入れないネットの目開き
- ・汚れが付きにくいネットの材質
- ・中間育成しやすいプレートの開発
- ・ウニが登れないブロックの形状
- ・高海水温に強い海藻への転換

### 3.さらなるステップアップ

#### ブルーカーボン対応多機能型藻場増殖礁「藻場王」の開発



30年にわたる実績を持つ藻場増殖礁「K-hatリ-β型」をベースに、各種の環境負荷低減、海藻増殖機能を強化した「藻場王」を開発しました。

日本で最も絶滅が危惧されるツシマヤマネコの保護を目的として、2007年「舟志(しゅうし)の森づくり推進委員会」が発足。当社社有林の竹林を伐採して、ヤマネコの餌となる竹などの小動物が餌とするドングリの木を植樹しました。20年近くを経てヤマネコの住む森となりました。委員会が設置した固定かごには舟志の森でのツシマヤマネコの様子も確認できます。

また、舟志の森では毎年子供たちが参加する自然観察会が開催され、豊かな森に成長した舟志の森が貴重な自然教材となっています。

#### 住友大阪セメントの生物多様性保全

目標達成  
生物多様性の保全 = 環境解決企業

SOC  
Vision  
2035



「豊かな森が豊かな海をつくる」 住友大阪セメント(株)が対馬と長年継続している磯焼け問題に対峙する藻場増殖礁の事業や、舟志の森におけるツシマヤマネコ保護活動が、環境解決企業としての生物多様性の保全に貢献するとともに、さらなるカーボンニュートラルに適合した藻場増殖礁「藻場王」の展開により、対馬の未来に向けての環境支援を今後も継続していきたいと考えます。